

- 問1 5世紀頃に現在の大阪府堺市などに造られた大仙古墳のような巨大な前方後円墳について、当時の社会背景を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2024年 茨城県公立入試 類似)
- 渡来人がもたらした仏教の教えを広めるための寺院として機能していた。
  - 稲作の豊作を祈るために、特定の支配者を持たない集落の人々が共同で管理する祭祀場であった。
  - 東北地方から九州地方まで、各地の有力な豪族が中央政権から完全に独立して統治していた。
  - 大和政権（ヤマト王権）の大王が、膨大な労働力を動員できる強力な支配権を及ぼしていた。
- 問2 4世紀ごろから大和政権と密接な関係を築き、朝鮮半島の南西部に位置していた国を何といいますか。この国は、五経博士による儒教の伝達や、日本への仏教伝播など、大陸文化を日本へ伝える窓口としての役割を果たしました。 (2020年 熊本県公立入試 類似)
- 新羅
  - 高句麗
  - 魏
  - 百濟
- 問3 熊本県に位置する前方後円墳である江田船山古墳からは、金象嵌（きんぞうがん）で文字が刻まれた鉄刀が出土しています。この鉄刀に「ワカタケル大王」の名が刻まれていたことは、当時の日本におけるどのような政治的状況を証明するものとして重要視されていますか。 (2022年 福岡県公立入試 類似)
- 九州地方に、近畿地方とは異なる独立した強力な国家が存在したこと
  - 大陸から伝わった仏教が、九州地方で最初期に受容されたこと
  - ヤマト王権の勢力が、九州地方にまで及んでいたこと
  - 縄文時代の交易ルートが、九州から関東までつながっていたこと
- 問4 5世紀、ヤマト政権の王たちは「倭の五王」として中国の南朝に相次いで使者を送りました。当時の王たちが、朝鮮半島での軍事的な立場を有利にしたり、国内の支配体制を安定させたりするために、中国の皇帝から得ようとしたものは何ですか。 (2024年 大阪府公立入試 類似)
- 律令制度を導入するための法典や教本
  - 仏教を正式な国教とするための許可
  - 遣隋使や遣唐使を派遣するための正式な国交
  - 自らの地位や権威を証明する称号
- 問5 古墳時代の大仙古墳やその出土品について述べた文章として、正しいものを1つ選びなさい。 (2026年 徳島県公立入試 類似)
- 大仙古墳は前方後円墳と呼ばれる形状を持ち、周囲には埴輪が並べられた。
  - 大仙古墳などの副葬品には金属器は含まれず、土器のみが納められた。
  - 大仙古墳は弥生時代に造られた日本最大級のお墓である。
  - 大仙古墳からは、副葬品として縄文時代と同じ土偶が出土している。
- 問6 千葉県最大級の前方後円墳である内裏塚古墳が築造された古墳時代の中期には、大陸との交流を通じて新しい製作技術が導入されました。この時期に生産が始まった「須恵器」の特徴を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2017年 千葉県公立入試 類似)
- 山の斜面などに作られた窯を使い、高温で蒸し焼きにした灰色の土器
  - 弥生土器の流れを汲み、野焼きによって比較的低温で焼かれた赤褐色の土器
  - 青銅を原料として鑄造され、祭祀の道具として用いられた釣鐘型の道具
  - 表面に魔除けの意味を持つ縄目の文様をつけた、厚手で黒褐色の土器
- 問7 4世紀から7世紀頃、多くの人々が大陸から日本列島へ移住した歴史的背景と、その後の影響についての説明として最も適切なものはどれですか。 (2021年 島根県公立入試 類似)
- シルクロードを経由した東西貿易を活発にするため、唐の皇帝が日本の平安京へ大規模な商人の集団を派遣した。
  - 朝鮮半島の動乱を逃れた人々や、大陸の先進技術が必要とした大和政権に招かれた人々が、漢字や仏教などを伝えた。
  - 律令制度を確立した日本が、地方の豪族を管理するために大陸から役人を大量に雇用し、全国各地に配置した。
  - モンゴル帝国の侵攻に対抗するため、日本列島から朝鮮半島へ軍事技術を持った集団が移住し、防御を固めた。
- 問8 古代日本における漢字の伝来とその影響について述べた説明として、最も適切なものはどれですか。大陸から移住してきた人々の活動や、宗教的な背景を踏まえて選びなさい。 (2026年 神奈川県公立入試 類似)
- 縄文時代の交易を通じて大陸の文字が広まり、その後、仏教を理解するための補助的な記号として漢字が発明された。
  - 渡来人が仏教の経典とともに漢字を伝え、日本人が公的な記録や情報の伝達を行う手段として定着した。
  - 聖徳太子が大陸へ渡った際、現地で使われていた文字を日本独自の文字として持ち帰り、仏教の布教に用いた。
  - 平安時代の貴族が、仏教の教えを分かりやすく書き換えるために、漢字をもとにして日本で初めて文字を作成した。
- 問9 古墳時代に大陸からの渡来人がもたらした技術や文化について、当時の状況を説明した文として最も適切なものはどれか。 (2024年 鳥取県公立入試 類似)
- 仏教が伝来し、寺院の屋根を飾るための瓦を焼く技術が初めて日本列島に導入された。
  - 木製農具や石包丁を用いた水田稲作とともに、赤褐色で薄手の土器が広まった。
  - 表面に縄目の文様を施し、食料を煮炊きするための厚手の土器が各地で作られた。
  - 山の斜面を利用した穴窯を築き、高温で焼き上げる硬質の須恵器の製法が伝わった。
- 問10 4世紀から7世紀頃にかけて、朝鮮半島や中国大陸から日本列島へ移住し、鉄器の製作、須恵器の生産、さらには漢字や仏教などの高度な技術や文化を伝えた人々を何と呼ぶか、最も適切なものを選びなさい。 (2017年 徳島県公立入試 類似)
- 遣唐使
  - 防人
  - 弥生人
  - 渡来人
- 問11 5世紀、ヤマト王権の「倭の五王」は中国の南朝（宋など）に繰り返し使者を送りました。中国側の歴史書『宋書』倭国伝に記されている、彼らが朝貢を通じて中国皇帝に認めてもらおうとした地位や権限とはどのようなものですか。 (2025年 沖縄県公立入試 類似)
- 鎖国体制を維持するために、他国との国交を断絶する公式な許可
  - 明との間で勘合を用いた貿易を行うための独占的な権利
  - 日本国内の支配権に加え、朝鮮半島南部における軍事的な指揮権
  - 遣隋使の派遣を永続的に免除される特権
- 問12 縄文時代と古墳時代の出土品の違いについて説明した文として、最も適切なものを1つ選びなさい。 (2026年 徳島県公立入試 類似)
- 埴輪は縄文時代の集落跡から多く出土し、土偶は古墳時代の豪族の墓から出土する。
  - 埴輪は古墳時代に古墳の表面や周囲に並べられたが、土偶は縄文時代に祈りや魔よけのために作られた。
  - 土偶も埴輪もどちらも古墳時代の副葬品であり、大仙古墳などの大型古墳から出土する。
  - 鉄剣や銅鏡は縄文時代から用いられ、土偶は古墳時代になって権力の象徴として副葬された。
- 問13 古墳時代の日本（倭）が朝鮮半島や中国大陸の諸王朝と活発に交流していたことを示す証拠について、群馬県の綿貫観音山古墳などの出土品から読み取れる共通点として最も適切なものはどれですか。 (2021年 群馬県公立入試 類似)
- 遣隋使が派遣されるまで大陸との交流は完全に途絶えており、仏教に関する文物のみが特例として見られる点
  - 縄文時代以来の伝統である大型の磨製石斧や、日本列島固有の黒曜石製品が大量に出土する点
  - 江戸時代の鎖国政策の影響により、大陸由来の文物が一切見られず、日本独自の土器のみが発達している点
  - 朝鮮半島の高句麗や百濟、新羅、加耶などの地域と共通する、銅製水瓶や馬具などの文物が確認される点

## 答え合わせ・解説

|     |                                                               |                                                                                                                                                                          |
|-----|---------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 問1  | 答え 4<br>大和政権（ヤマト王権）の大王が、膨大な労働力を動員できる強力な支配権を及ぼしていた。            | 近畿地方にある大仙古墳のような巨大な墳墓の築造には、極めて多くの人手と長い年月が必要でした。このような大規模な土木工事が可能であったことは、当時の大王が広い範囲にわたって人々を支配し、動員できるほど強力な権力を持っていたことを示しています。                                                 |
| 問2  | 答え 4<br>百済                                                    | 朝鮮半島の南西部に位置した百済は、半島の主導権争いの中で大和政権と友好関係を深めました。この交流を通じて、漢字、儒教、仏教といった高度な大陸文化が日本に導入され、日本の古代国家の形成に大きな影響を与えました。                                                                 |
| 問3  | 答え 3<br>ヤマト王権の勢力が、九州地方にまで及んでいたこと                              | 5世紀後半のものとされる江田船山古墳の鉄刀には「ワカタケル大王（雄略天皇）」の名が刻まれており、これはヤマト王権（大和政権）の支配力が九州地方にまで浸透していたことを示す決定的な証拠となっています。同様の銘文を持つ鉄剣が埼玉県の稲荷山古墳からも出土しているため、当時の王権が関東から九州までの広範囲を統治下に置いていたことがわかります。 |
| 問4  | 答え 4<br>自らの地位や権威を証明する称号                                       | 5世紀の朝鮮半島では高句麗が南下政策をとっており、ヤマト政権は百済や加耶（加羅）との関係を維持するために、中国の皇帝から軍事指揮権を含む官号（称号）を得る必要がありました。中国という巨大な帝国の権威を借りることで、国際的な立場を強めると同時に、日本国内の豪族たちに対する支配の正当性を主張しようとしたのが主な目的です。          |
| 問5  | 答え 1<br>大仙古墳は前方後円墳と呼ばれる形状を持ち、周囲には埴輪が並べられた。                    | 大仙古墳は古墳時代に造られた日本最大の前方後円墳であり、その周囲には埴輪が並べられました。土偶は縄文時代の遺物であり、古墳の副葬品には銅鏡や鉄剣などの金属器も含まれます。                                                                                    |
| 問6  | 答え 1<br>山の斜面などに作られた窯を使い、高温で蒸し焼きにした灰色の土器                       | 須恵器は、朝鮮半島から伝わった「穴窯（あながま）」という設備を使い、酸素が少ない状態で高温調理（蒸し焼き）にするため、特有の灰色になります。これに対し、同時に使われていた土師器（はじき）は、古墳時代以前からの伝統的な手法である「野焼き」で作られていたため、赤褐色をしています。                               |
| 問7  | 答え 2<br>朝鮮半島の動乱を逃れた人々や、大陸の先進技術を必要とした大和政権に招かれた人々が、漢字や仏教などを伝えた。 | 当時の朝鮮半島は高句麗・百済・新羅が勢力を争う激動期にありました。戦乱を避ける目的や、高度な文化・技術を吸収したい大和政権の要請によって移住が促進され、伝えられた文化は後の飛鳥文化などの発展に大きく寄与しました。                                                               |
| 問8  | 答え 2<br>渡来人が仏教の経典とともに漢字を伝え、日本人が公的な記録や情報の伝達を行う手段として定着した。       | 朝鮮半島や中国大陸から移住した渡来人によって、漢字は仏教の経典とともに日本に伝えられました。当時、文字を持たなかった日本列島の人々は、これを受け入れることで歴史の記録や公的な文書の作成、そして宗教の理解を深めることが可能になり、日本の文明化に大きな影響を与えました。                                    |
| 問9  | 答え 4<br>山の斜面を利用した穴窯を築き、高温で焼き上げる硬質の須恵器の製法が伝わった。                | 4世紀から5世紀にかけて、大陸や朝鮮半島から多くの渡来人が移住し、新しい技術を日本列島に伝えました。彼らは金属器の加工や織物の技術とともに、密閉された穴窯で焼成する須恵器の技術をもたらしました。この技術により、従来の土器よりも高い強度を持つ器の生産が可能となりました。他の選択肢は縄文時代、弥生時代、または飛鳥時代以降の出来事です。   |
| 問10 | 答え 4<br>渡来人                                                   | 4世紀以降、大陸での戦乱などを背景に、朝鮮半島や中国大陸から優れた技術や知識を持つ人々が日本列島へ移り住みました。彼らは金属加工や土木技術、機織りなどの実用的な技術だけでなく、漢字や儒教、仏教といった学問・宗教も伝え、古代日本の文化や政治の発展に大きな役割を果たしました。                                 |
| 問11 | 答え 3<br>日本国内の支配権に加え、朝鮮半島南部における軍事的な指揮権                         | 5世紀になると、ヤマト王権の王たちは「倭の五王（讃・珍・済・興・武）」として中国の南朝に朝貢しました。彼らの主な目的は、日本国内の統一的な支配権を国際的に認めさせることだけでなく、当時進出を図っていた朝鮮半島南部における外交・軍事的な優位性を確保し、その立場を中国皇帝に正当化してもらうことにありました。                 |
| 問12 | 答え 2<br>埴輪は古墳時代に古墳の表面や周囲に並べられたが、土偶は縄文時代に祈りや魔よけのために作られた。       | 埴輪は古墳時代に造られた古墳に並べられた土製品ですが、土偶は縄文時代に魔よけや豊かな収穫などを祈るために作られたものです。このように、作られた時代や使用目的が異なります。                                                                                    |
| 問13 | 答え 4<br>朝鮮半島の高句麗や百済、新羅、加耶などの地域と共通する、銅製水瓶や馬具などの文物が確認される点       | 古墳時代の日本列島は、地理的に近い朝鮮半島の高句麗・百済・新羅・加耶、および中国の南朝や北朝と活発な交流を持っていました。その具体的な証拠として、群馬県の綿貫観音山古墳をはじめとする各地の古墳から、大陸や半島の影響を強く受けた「銅製水瓶」や「馬具」などの文物が共通して出土しており、当時の国際的なネットワークの広がりを示しています。   |